



2025.1
No.166

松川町議会です

町民投稿

かえり道 みかんいろした ゆうやけだ (松川中央小学校5年

しもだいらゆう だい
下平優泰)



特集

希望がもてる松川町の未来に向かって
新体制で第18期議会スタート

2~5ページ

12月定例会

職員給与の見直し・あったか応援券事業

6~9ページ

10人が問う一般質問

14~23ページ

希望がもてる松川町の未来に向かって

新人6人が加わり新体制でスタート

議長に米山俊孝 議員、副議長に坂本勇治 議員

第18期議会として新体制のもと12月定例会が開会。正副議長、各常任委員会、議会運営委員会など運営に必要な議会構成を決定しました。



YouTubeで視聴できます

スピード感を持った施策実現の探求

議長 米山俊孝

新年あけましておめでとうでございます。松川町議会第18期の議長に就任いたしましたこと、誠に身に余る光栄であり、心より感謝申し上げます。その重責を痛感し、身の引き締まる思いでございます。

地方自治の本旨は、議会と執行部が共に切磋琢磨し、社会福祉をはじめとした町民生活の向上や産業振興に努める二元代表制にあるとされております。町民の信頼と負託に応えるべく、公正かつ円滑な議会運営を実現するために、議員各位のご理解とご支援を得ることを念頭に、町長とも十分に議論を重ね、全力で職責を全うする覚悟でございます。

町民のための施策をスピード感を持って実践していくことが、明日の発展につながると確信しております。皆様方の温かいご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、就任のご挨拶とさせていただきます。



信頼される議会を目指します

副議長 坂本勇治

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。この度、議会の改選にあたり、再び副議長を務めることになりました。

今までの経験を活かし、議長を補佐し公平公正な議会運営に努め、議員相互間の議論を尽くすなかで合意形成をはかることと、闊達な議論の展開により、本議会が多くの町民の皆様注目され、厚い信頼が得られるよう、全力を尽くしてまいります。

議会と執行部は車の両輪だと言われますが、お互いに協力し合い町民のためにより良い町政実現を目指すと共に、町政のチェック機能の強化も進展させ是非々の姿勢を貫き、毅然とした態度で議会として町民に信頼されることを目指します。

議会の和、議論の場を一番とし精一杯頑張ります。町民の皆様のご多幸とご健勝を祈念いたしまして、就任の挨拶とします。





各委員長よりご挨拶

町のためにベストな合意形成を



総務産業建設常任委員長

加賀田 亮

議会は議員個人の集合体であり、さまざまな考えや意見があります。三期目の議員として町のため、町民のために議会がベストな判断を模索し合意形成を図れるように、微力ながら牽引していきたいと思います。また、住民にとって身近で頼れる議会を目指し、より開かれた議会の実現に尽力する所存です。

身近な議員・開かれた議会をめざして



社会文教常任委員長

塩沢 貴浩

議員・議会を町民の皆さまの身近な存在とし、対話や情報共有を大切にしたい、住みやすい松川町を目指して頑張つて参ります。わたし自身、子育て世帯であり介護世帯である立場から、地域の皆さまの声を議会に届け、ともに課題を解決していくため尽力して参る決意です。

自治と学習が生きる地域づくりを



広報広聴常任委員長

米山 義盛

新しい年の皆様のご健勝をお祈り申し上げます。「新しい政治」状況のなかで、平和を大事に住民一人ひとりを大切に、皆様の思いを反映する松川町政を前に進めるために、二期目古希を迎えながらも若い気持ちで頑張りたいとの決意を新たにしています。

礼を用いて調和のある議会に



議会運営委員長

米山 郁子

公平・公正で透明な議会運営はもとより、議員の資質向上とともに、監視機能の強化や町民目線に立った政策立案、提言など議会の権能強化が求められています。「身近な議会」を目標に二元代表制のもと町民の代表として議員14人がひとつとなり、秩序・規範を基に調和のとれた議会運営に取り組んでまいります。



総務産業建設常任委員会

税が適正に使われているか



副委員長
監査委員

松井悦子

議会選出の監査委員を務めさせていただきまます。町税が一部の人の利益に偏ることなく、町民全体の利益につながる使い方がされるかどうかを議会は見ていく必要があります。問題点や疑問点を指摘し、議会本来の役割を忠実に遂行できる議会となるよう協力して務めてまいります。

人口減に歯止めをかけ、輝く町に



紫芝光雄

人口減少に歯止めをかけ、未来へつながるまちづくりを提案してまいります。農・商・工業の発展なくして町の発展、活性化は望めません。すべての業種に勤める方たちが幸せを実感できるよう、町民に寄り添った町政を目指して議員活動を続けてまいります。

活気ある松川町を目指して



松下正敏

現在ある松川町の課題を整理し、早期に解決できるよう努めてまいります。そして住みやすい町、活気ある松川町を目指して取り組んでまいります。

生活満足度を高め人口の回復を



小川隼人

町の未来を見据え、人口を回復し発展していくには、行政と町民が目標を共有し、町民の生活満足度を向上させることが第一歩です。行政と町民のパイプ役として、若い視点と行動力で「ウェルビーイング」を実感できるまちづくりのために努めてまいります。



社会文教常任委員会

町議会議員だからできること



副委員長

星野光洋

補選で選任いただいた今まで「町議会議員には何ができるか」を考える日々でした。国・県などの議員に比べ、町に暮らす人、町のために働く人とのキヨリがとても近いのが特徴であり、それ故の役割があることを感じています。その役割の利点を最大限に活かして、ワクワクする松川町をみなさんと共に作っていきます。

町民の皆様との身近な議会に



宮下 明

今回の「投票率55・08%」は議会・議員に対する一つの評価であり、町民の皆様との距離だと思えます。行政は執行機関、議会は意思決定機関として車の両輪に例えられます。町民の皆様が立場に立ち、福祉の向上という共通の目的のため、身近な存在として活動してまいりますので是非、皆様のお声を聞かせください。

町民の生活の質の向上を



谷川博昭

町民の皆様の日々の生活がより充実したものとなるよう、町民の皆様の下支えとなり尽力します。共により良い町にしていきたいでしょう。よろしくお願いいたします。

自分の強みを活かした議員活動を



柳原 猛

子育て世代や移住者としての目線を活かし、行政や地域の皆さんと協働しながら教育、住まい、シゴトづくりを軸に取り組みます。また、課題解決だけでなく「いいとこ探し」もして磨き上げ、「まっかわ最高♪」とみんなが誇れるまちを目指します。

令和6年12月定例会 一般会計補正予算などを可決

令和6年第4回12月定例会は12月2日から23日まで開催され、一般会計補正予算(第7回、第8回)などを、総括質疑と各常任委員会の審査を経て最終日に可決した。
※議決結果の一覧は12ページを参照



定例会の様子はYouTubeで視聴できます

	補正前	補正額	補正後
一般会計補正予算(第7回)	82億1,666万円	2億5,911万円	84億7,577万円
一般会計補正予算(第8回)	84億7,577万円	9,320万円	85億6,897万円

主な補正内容

職員給与の見直し

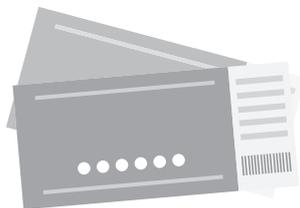
8,290万円



人事院勧告に基づく見直し

あったか応援券事業

5,160万円



町内で使用できる生活応援券を配布

物価高騰対策 給付金

4,160万円



低所得世帯及びその子育て世帯への給付金の支給

若者定住住宅取得 祝金

640万円



住宅取得者の増加による見直し

地域観光新発見 事業

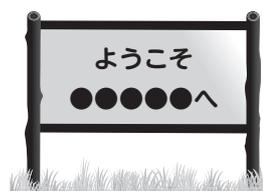
317万円



Orchardツーリズム(食、果樹園、サイクリングなど)の推進

おもてなし看板 設置事業

65万円



企業版ふるさと納税を活用した小学生による看板作成

ここが聞きたい!!

農業研修制度

質問 農業研修制度費用減の理由は。

(星野議員)

答弁 6期生の募集を行い3人が体験に来たが、最終応募に至らなかったため2人×2か月分を減額した。研修終了後の圃場の確保が整っていない状況もあり新規研修生の確保よりも現在の研修生の独立支援を優先したい。



地域観光 新発見事業

質問 地域観光新発見事業のサイクリングツアーについて以前のEバイク事業との関連は。

(塩沢議員)

答弁 今回の事業でも以前の事業で購入したEバイクを希望者には貸し出しを行い、新たにツアーガイドを付けてサイクリングツアーを実施する。新たな観光コンテンツを通して関係人口を増やし、地域経済活性化や移住定住に繋げたい。

およりの森

質問 およりの森のトイレ設置について詳細を。

(柳原議員)

答弁 県の補助金を活用して、およりの森の大の字広場に利用者のバイオマストイレを設置するもの。



大の字広場にトイレ設置

介護保険会計

質問 介護保険会計について予備費が多いが。

(松井議員)

答弁 本年度から3年間は同じ保険料で運営しなければならぬため、初年度については少し余裕を持った会計とした。

保育士派遣

質問 保育士派遣費用減の理由は。

(小川議員)

答弁 当初3人ほどの派遣委託を見込んでいたが応募に至らず、結果的に1人のみとなったことにより2人分の減とした。派遣人員の不足分の費用で園の調理員などの人員を補充した。

保育園の 生ごみ処理機

質問 大島保育園の生ごみ処理機170万円とは。

(谷川議員)

答弁 各園に配置をしている生ごみ処理機だが、導入してから約20年経っており損壊のため新しく買い替えるもの。機械は高額だが運搬によるごみ処理よりも総合的に安価であると判断している。

教育現場の ICT活用

質問 ICT支援員について教職員のICT能力管理をどのように行っているか。

(加賀田議員)

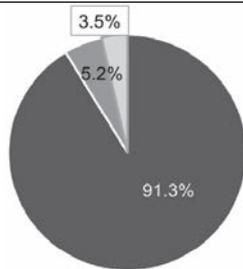
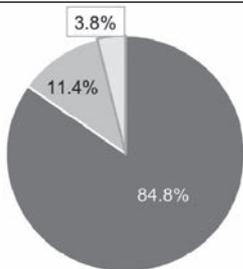
答弁 教育委員会による定期的な学校訪問と教員の研修結果を校内で共有するなどを取り組んでおり、以前に比べると学校の授業のなかでのICTの利用は伸びているが、教員によってバラつきがあるの否めない。定期的に行っているICTの



生ごみ処理機は環境にも優しい

担当者会議や学校長との連携で管理、対応方法を検討していく。

小学校等の端末の利活用開始状況(学校数) 中学校等の端末の利活用開始状況(学校数)



■ 全学年で利活用を開始
■ 一部学年で利活用を開始
■ 利活用を開始していない

部活の地域移行

質問 部活の地域移行のスケジュールは。

(加賀田議員)

答弁 中学生の土日の部活動がなくなるため、その受け皿として松川クラブを立ち上げ、クラブのモデル事業に参加してくれる団体を募った。1月以降に試験的にクラブとして活動していく。その後、3月までのモデル事業でのテストを経て、4月より新たにモデル事業となるクラブの再募集を始める。

答弁 地域共生は町としても注力して取り組んでおり、コーディネーターは七夕企画など要所で活動している。情報発信についてはチャンネル・ユーや各種新聞の記事など積極的に発信しているが、住民にもっと理解が深まるよう努めていく。

民生児童委員

質問 民生児童委員の減額の内容は。

(加賀田議員)

答弁 民生児童委員の定員29人に対して現在2人が欠員となっているため減額となっている。4月より補充に奔走したが、なり手がいない状況。欠員になっている地区が広範囲のに渡るため補充すべきと考えている。地区推薦なども含めて今後も

寄付金の充当方法

質問 ふるさと納税の寄付金を事業に充当させるプロセスは。

(宮下議員)

答弁 充当の決定について特別な委員会などはないが、財政係で町の年度の計画に対して寄付金を使えるかを確認し、可能な場合に充当している。

ふるさと納税 委託費用

質問 ふるさと納税の委託費についてセンターへの委託料の割合は。また、特産品企画事業増について企画事業の内容は。

(米山議員)

補充方法を検討している。

答弁 寄付金額の9%が委託料であり、内訳は約8%が特産品企画事業で1%が委託料にあたる。企画事業は、返礼品となる特産品の収集からセット内容など検討それに伴う入れ物などの梱包資材確保や松川ふるさと納税のPR、マーケティング業務など多岐に渡る。

「くだもの里まつかわ」応援寄附条例の改正

ふるさと納税寄附金の使途を明確化することにより、目的に沿った寄附の受け入れを呼び込むとともに、寄附金額の更なる増加を狙い事業の財源として活用する。

【条例改正による効果】

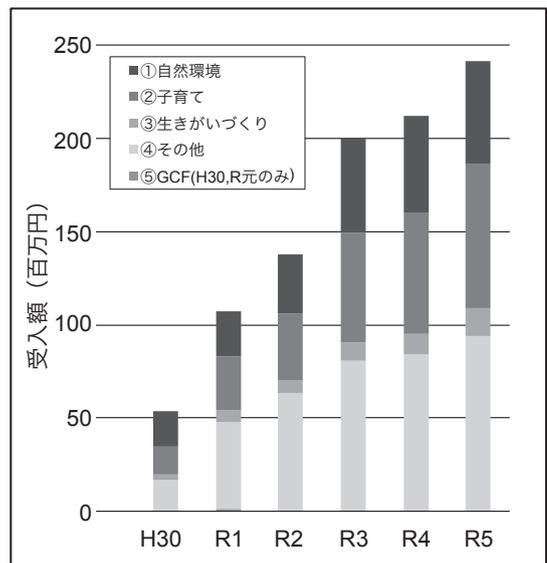
寄附金活用の見える化／財政運営における柔軟性の向上
／住民満足度の向上

【改正前】

第2条(事業の区分)	参考 R5 充当実績(充当金額)
①自然環境・農村景観・公園整備事業	有害鳥獣対策、公園環境整備など
②子育て・教育・人事育成事業	図書購入、子育て支援センター運営など
③高齢者の生きがいづくり・公共交通事業	ひまわり乗車券
④その他目的達成のために町長が認めた事業	出生子育て支援金、保育園、小中学校環境整備など

【改正後】

第2条(事業の区分)	想定している事業例
①産学官民連携による交流・移住定住促進・地方創生	移住定住促進事業、地域づくり事業など
②医療・福祉の充実	保健事業、(高齢者を含む)福祉向上事業など
③自然環境の保全・脱炭素化の推進	LED化改修、省エネに関する事業など
④産業(農業・林業・商業・工業)の振興	各産業の振興
⑤生活環境の維持・災害対策の強化	防災対策関係、道路事業など
⑥子育て・教育の振興	学校教育関係、保育園関係など
⑦スポーツ・文化芸術の振興	スポーツ振興、文化財保護など
⑧その他目的達成のために町長が認めた事業	その他



ふるさと納税寄附額の推移 (年度別・目的別)
※積上げは年度毎の寄附額合計となる

令和6年松川町一般会計補正予算(第8回)

国民の安心・安全と持続的な成長に向けた総合経済対策が2024年11月22日に閣議決定

令和6年度物価高騰対応重点支援地方交付金事業

①物価高騰対策給付金

住民税の非課税世帯に対し一世帯当たり3万円の給付
上記対象世帯のうちこども加算金として児童一人につき2万円を給付

②生活応援券事業

令和6年12月1日時点で町内に住民登録住民投票登録のある方一人につき4,000円的生活応援券を世帯単位で配布

質問 応援券事業について住民一律金額での応援券配布に至った経緯は。(加賀田議員)

答弁 物価高騰による影響に対し、町内で使用できる応援券の形式をとることで利用者にも事業者にもメリットが発生する。一時的だがとしても利用者の生活費負担軽減、地域経済の活性化につながるものと考え、前回までの一人3千円に1千円をプラスし一律4千円の応援券配布を決定した。

質問 応援券が利用できる対象店舗にスーパーは含まれているか。(松井議員)

答弁 昨年協力いただいた町内事業者を中心に、商工会と連携し順次対象店舗を増やしていくが現状では含まれていない。日常的に利

用するスーパーで使えないのは不便であるという声は認識しているが、応援券の利用が特定の事業所に集中することなく、町内の事業所で広く利用してもらいたいという側面から現在の判断に至っている。



質問 過去数回応援券事業を行っていているが、使用率は100%ではないのでは。利用されなかった差額はどうか

るか。(小川議員)

答弁 昨年の実績では使用率は92%だった。残額については財政などと協議し、目的に則した事業に充当していく。今回は使用期限を5月までという長い期間を設定しているのので、近い使用率を目指したい。



一人につき4,000円的生活応援券を世帯単位で配布

質問 応援券事業に決

定する前に他の事業案はあったか。(谷川議員)

答弁 各課に事業案を募集するなかで学校のLED化というものもあった。学校関連は別の交付金などもあるため、今回は物価高騰による消費者支援を町内で平等に、という観点から応援券事業に決定した。

質問 マイナンバーカードによって迅速に給付金を支給できる仕組みがあるが、そのような取り組みは行われているか。(宮下議員)

答弁 6月に行われた調整給付金から「ぴつたりサービス」を使っており、スムーズに振込できる仕組みが整備された。現在は約1週間程度で支給できるようになっている。

だより



委員会の模様を
YouTubeで
視聴できます

社会文教 常任委員会

社会文教常任委員会は、住民税務課・保健福祉課・教育委員会(こども課・生涯学習課)・会計室の分野を担当しています。

に総務産業建設常任委員会を行い、それぞれ判断にて現地調査も実施しました。

調査を分担し、能率的に処理するために設置された機関です。

質問・意見



答弁

①保育園の生ごみ処理機の購入費170万円の費用対効果は。また、生ごみ収集費と生ごみ処理機購入費を比べるデータが必要ではないか。

②障がい者福祉費で自立支援給付費が960万円の増となっている。どのサービスが増加しているのか。

③病児保育負担金55万円の増について、病児保育を当町で行えばニーズの顕在化、また掘り起こしができると考えるが。

④おもてなし看板設置の継続性についてどのように考えているか。

⑤部活動地域移行運営事務員の増員について、役割はどのようになっているか。

①生ごみは水分を多く含むので処理場の負担になり、月10万円前後の費用が発生する。生ごみ処理機は長い目で見れば環境に配慮し、経費削減にもつながる。

②介護給付費の訪問型サービスが400万円、入所・通所サービスの生活介護や就労支援で310万円。また補装具の車いすの購入に250万円の増となった。重度区分の方が増えたことによる。

③現在は飯田市の病院のサービスを提供している。飯島町では近隣市町村と連携し費用を負担しながら運営をしている。町単独よりは、近隣町村や民間企業と一緒に研究したい。

④企業版ふるさと納税を活用した65万円の事業規模で実施する。学校や子どもたちと協議しながら進める。子どもたちがまちづくりに関わっていく事業は、今後も継続していくべきと考えている。

⑤部活動の地域移行という全く新しい事業の事務全般を行ってもらう。県のモデル事業であり県の補助金を活用していく。

審査を付託された議案

- ①令和6年度松川町一般会計補正予算(第7回)
- ②令和6年度松川町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1回)
- ③令和6年度松川町介護保険事業特別会計補正予算(第3回)

令和6年度各補正予算は、質疑・討論を行い、全員賛成で当委員会としては原案のとおり認めることが妥当と決しました。

【現地調査】

工事が完了した上片桐公民館のトイレと図書館・資料館の屋根外壁改修工事を視察しました。



《上片桐公民館トイレ》



《図書館・資料館屋根外壁工事》

総務産業建設 常任委員会



委員会の模様を
YouTubeで
視聴できます

総務産業建設常任委員会は、総務課・まちづくり政策課・産業観光課・建設水道リニア対策課・議会事務局の分野を担当しています。

委員会

12月6日(金)に社会文教常任委員会、11日(火)付託された議案について審議しました。委員会※常任委員会制度とは、多数の議案をそれぞれ担当部門別に

質問・意見

答弁

①ホームページ追加機能予算をなぜ減らすのか。

①現行のホームページは6年経過しており、他の町村などと比べても見劣りする。小規模な改変を行うよりも、抜本的なリニューアルが必要と考える。新年度以降に検討したい。

②今後の移住振興に寄与するために、これまでの移住定住者に対しアンケートなどの調査を行っているか。

②アンケートは取っているが回答率が低い。専用の移住定住サイトを構築し移住者のインタビュー記事を掲載し、町の魅力を発信したい。

③研修生の応募がなく残念だ。研修終了後の就農時に農地を得られない、自立できる収益が見込めない、という懸念が要因の一つでは。就農時、就農後のサポート充実が必要では。

③新年度は半農半Xのように地域活動も含めた募集、承継問題を抱えた農地地主への連携などを計画したい。

④地域観光新発見事業補助について限定的な観光事業を町が負担する正当性について、今一度住民に対する説明を。

④国の補助金を受けた事業の優良事例として認められた。先進的な取り組みであり、認知度を向上させるためにも町の重要な事業という位置づけで支援する。今後もPR活動を行い観光地のブランディングを進める。訪問客を増やし、さまざまな効果が町内に波及すると考える。

⑤清流苑補正予算の売店商品仕入530万円、自販機仕入他200万円の増加要因は。

⑤コロナ明けで利用者数がコロナ前の水準を超えた。猛暑により飲料の消費も増え自販機の仕入増加につながった。昨年度ロビー売店の改修を行い、一度在庫をすべて整理したため、売店商品仕入の増加につながった。

審査を付託された議案

- ①令和6年度松川町一般会計補正予算(第7回)
- ②令和6年度松川町水道事業会計補正予算(第2回)
- ③令和6年度松川町下水道事業会計補正予算(第2回)
- ④令和6年度松川町信州まつかわ温泉清流苑事業会計補正予算(第4回)

令和6年度各補正予算は、質疑・討論を行い、全員賛成で当委員会としては原案のとおり認めることが妥当と決しました。

【現地調査】

福与河原圃場整備予定地を視察しました。



議 決 結 果

令和6年第5回臨時会議決結果

●全員一致で議決されたもの

件名	結果	内 容
専決 令和6年度松川町一般会計補正予算(第6回)について	承認	歳入歳出それぞれ970万円を追加し、82億1,666万円とする
令和5年度脱炭素化推進事業 松川町総合グラウンド・テニスコート照明LED化改修工事変更請負契約の締結について	承認	330万円の増額
任命 松川町教育委員会委員の任命について (第3回定例会最終日に、継続審議について賛成多数で可決され、その後委員会付託とされていた議案第25号)	同意	委員：小林美佳氏

※議会だよりNo.165 10ページの記載に誤りがありましたので、下記に正誤表を掲載いたします。大変申し訳ございませんでした。

(正)●継続審議をすることとなったもの 継続審議に賛成○ 反対● (誤)●多数意見により議決されたもの 賛成○ 反対●

件名	星野光洋	塩沢貴浩	米山義盛	加賀田亮	米山郁子	川瀬八十治	大蔵洋	坂本勇治	間瀬重男	松井悦子	結果	内 容
任命 松川町教育委員会委員の任命について	○	○	○	○	○	●	○	●	●	○	継続審議	集落支援員と教育委員を兼ねることによる特別交付税への影響について十分確認を行った後、再度採決を行うこととする。

令和6年第4回定例会議決結果

●全員一致で議決されたもの

件名	結果	内 容
選挙 議長の選挙	当选	議長：米山俊孝議員
指名推薦 副議長の選任について	当选	副議長：坂本勇治議員
条例 「くだもの里まつかわ」応援寄附条例の一部を改正する条例の制定について	可決	ふるさと納税寄附金の使途の明確化により、寄付金額の更なる増加を目指す
	可決	令和6年人事院勧告による給与改定
締結 飯田市との間において締結した定住自立圏形成協定の一部を変更する協定を締結することについて	可決	平成21年7月14日に締結した定住自立圏の形成に関する協定の一部変更
補正予算 令和6年度松川町一般会計補正予算(第7回)について	可決	歳入歳出それぞれ2億5,911万円を追加し、84億7,577万円とする
	可決	歳入歳出それぞれ260万円を減額し、2億502万円とする
	可決	歳入歳出それぞれ1億1,202万円を追加し、17億1,883万円とする
	可決	営業費用 128万円、職員給与費 68万円
	可決	営業外収益 △50万円、営業費用 △3万円 企業債 260万円、補助金 264万円、建設改良費 529万円
	可決	営業外収益 270万円、営業費用 3,926万円 営業費外用 △279万円、職員給与費 630万円
	可決	物価高騰対策給付金：4,160万円 生活応援券事業：5,160万円
計画 辺地に係る総合整備計画の変更について	可決	生東辺地における梅松苑、町道・林道の整備、小型動力ポンプ搭載自動車の更新、文化振興施設の環境整備工事
選任 松川町監査委員の選任について	同意	委員：松井悦子議員
	同意	委員：宮澤憲治氏
専決 町道での車両事故による損害賠償の専決処分について(専決第3号)	承認	町道福与部奈線での車両事故による損害賠償
発議 リニア対策特別委員会設置に関する決議について(発議第1号)	可決	提出者：坂本勇治議員
	可決	提出者：松井悦子議員

10月～12月 主な議会日程

10月1日(火) 議会運営委員会、リニア対策委員会現地視察	12月2日(月) 第4回定例会/開会(初議会)
3日(木) 広報部会	4日(水) 議会運営委員会、議会全員協議会、議員協議会
8日(火) 広報部会	5日(木) 第4回定例会/再開(総括質疑)
16日(水) 中学校出前講座	6日(金) 社会文教常任委員会
21日(月) 議会全員協議会、議員協議会、議会運営委員会	11日(水) 総務産業建設常任委員会
31日(木) 議会運営委員会、社会文教常任委員会	17日(火) 第4回定例会/一般質問、議員協議会
11月5日(火) 臨時会	20日(金) 議会全員協議会、第4回定例会/最終日
25日(月) 新議員研修会	

町の考えを問う!

一般質問

1. 小川隼人 議員 (14ページ)

松川町の将来像について 他

2. 宮下明 議員 (15ページ)

(仮称)元気センターの整備が白紙撤回となった件について 他

3. 星野光洋 議員 (16ページ)

高齢者の安否確認の取り組みについて

4. 柳原猛 議員 (17ページ)

「子育て、住まい、シゴト」3つの政策の柱の進展状況

5. 松下正敏 議員 (18ページ)

農業分野での労働力不足に対する対応策について 他

6. 紫芝光雄 議員 (19ページ)

松川町の活性化について

7. 塩沢貴浩 議員 (20ページ)

松川町の果樹産業の持続可能な発展のために

8. 米山義盛 議員 (21ページ)

リニア新幹線完成遅れへの町の対応について 他

9. 米山郁子 議員 (22ページ)

教育体制の状況と課題、今後の整備と支援について

10. 加賀田亮 議員 (23ページ)

これまで質した課題の進捗状況 他

お知らせ



YouTubeで議会活動配信中!

松川町議会の定例会・臨時会・全員協議会・各常任委員会・一般質問の様子が YouTube で視聴できます。詳しくは「松川町議会チャンネル」で検索してください。



チャンネル・ユーでも議会活動放送中!

松川町議会の上記の活動は、チャンネル・ユーでも視聴できます。本会議と一般質問は生中継しております。全員協議会・常任委員会は翌日放送されます。再放送もあります。

今月の表紙

福与三柱神社では福与元気村主催により12月31日大晦日に、毎年恒例の福与だるまの販売をしています。通常のだるまは福入が多いですが、福与だるまは福を与えてくれるだるまです。区民の皆様大変喜ばれています。

一般質問は議員にとって、住民から重大な関心と期待を持たれる大事な議員活動です。町政全般にわたって執行機関に疑問点を質し、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い、政治姿勢を明らかにするものです。

質問の持ち時間はひとり20分ですがスペースの都合上、質問者の責任において質問と答弁を要約して掲載しています。本会議での傍聴をお待ちしております。

問 今松川町は何を目指しているのか



小川隼人 議員

答 重点分野の関連事業を強力に推進する

今町が何を指して何をしようとしているのか伝わってこない。町民の自主的な活動と行政との連動性も見られず行政の考えと町民の思いが噛み合っていないように感じる。

行政と町民の間で理解と共有が不足しているのではないか。

いっぱん質問

(問) 松川町の将来像について今町は何を目指して何をしようとしているのか。

してもらえよう取り組みを進める。また、町民意識調査を毎年実施し、目標数値を高めることを目指す。

(町長) 松川町の将来像の実現に向け、町内の各団体や個人と行政が連携しやすい環境を整え、「子育て」「移住定住」「仕事づくり」を重点分野とし、これらに関連する事業を強力に推進したい。

(問) 観光事業は一次産業や観光産業に關わっていない八割の住民にどのような恩恵があるのか。

(産業観光課長) 観光事業は地域経済の活性化や文化や歴史の再評価、関係人口づくり、地域の誇りの醸成につながると考えている。「くだもの町まつかわ」を発信することで、交流人口の増・移住定住につながる施策を進めている。今後は観光事業と地域住民との共有・連携を強化し、全ての住民がともに発展できるように努めていきたい。

の目的や結果を共有しなければ町民に理解されない。町民全体の視点に立って、観光による利益をどのように還元し恩恵を感じていただくか、その具体的な仕組みや計画づくりをしてもらいたい。

(問) 保育園の未満児保育受け入れ基準見直しに関する請願の進捗を。

(子ども課長) 受け入れ期間を産後一年に延長するためには保育士の増員、保育室の増設などの問題があり、請願の内容どおりに基準を見直すことには至っていない。

(意見) 移住定住の観点からも近隣町村より秀でた子育ての手厚い環境支援が必須であり、引き続き改善に向けて取り組んでほしい。

(問) 再生可能エネルギー発電設備の設置などに関するガイドラインの見直しについて進捗を。

(住民税務課長) 施行された県の条例に沿って来年度検討する。

(意見) 県の条例に沿うだけでなく安心安全の定義や危機管理方法など松川町独自の基準を検討すべきである。

(町長) 町内でさまざまな取り組みや町民の自主的な活動が生まれてきていることは認識している。住民に実感

(意見) 具体的な事業

Well-being



住民の幸福なくしては町の発展はない



宮下 明 議員

問 地域共生社会のビジョンとは



答

立場や年齢に関係なく、人と人が主体性を持ち、つながり合えるような社会

(仮称)元気センターは地域共生社会の象徴としては町が主導し6年をかけて取り組んできた。昨年、町長就任後、僅か半年で白紙撤回となった。その背景や理由は何か。また、地域共生社会のビジョン、ハローミヤの跡地利用について町の姿勢を問う。

いっばん質問

(町長) どのような立

(問) 理事者として地域共生社会のビジョンはどのようなものか。

(町長) 私の立候補の公約として建設の再検証を挙げていた。6年もかかった要因は、関係者だけで議論し、住民の意思を確認してこなかったことが一つの要因だった。賛否あるなか、最終的な判断を就任後4か月で行わなければならなかった。検証プロジェクトチームを立ち上げ、さまざまな要素を積み上げ、総合的に判断した。

(問) 地域共生社会の実現に向けて町が主導し多くの事業所、当事者、ボランティア団体などを巻き込みながら取り組んできたが、町長就任後、僅か半年で白紙撤回した理由は。

どのようなか

(問) 理事者として地域共生社会のビジョンはどのようなものか。

(意見) この事業は「地域づくり」で全課にまたがる事業である。このような視点で検討してほしい。

場の方であっても、また年齢に関係なく人と人が主体性を持ちながらつながり合えるような社会を住民と協働で創り上げたい。町には福祉事業者がそれぞれ力を持ち長く事業を継続している。これは他の自治体に誇れる町の個性であり、それぞれが地域共生社会にむけて動いてきたと理解をしている。

る。それらとのコ

(問) この4月から重層的支援体制整備事業として重層支援コーディネーターと地域共生コーディネーターを配置している。町内にはたくさんの方々がボランティア団体がある。それらとのコ

(意見) 自治会や区の加入率が減少しているなかで、地域づくりの新たな視点なので積極的に実施してほしい。

(保健福祉課長) そのとおりだが一年目でもあり、少しずつ広がっている。また、共生社会とはどのようなものなのか、学校や住民に前講座を始めている。

階で方針を決定したい。

(保健福祉課長) 白紙の結論に至ってからはさまざまな活用方法を模索している。早い段階で方針を決定したい。

(意見) 建設予定であったセンターは、もともと一部の人のためのものではなかったはずで、地域づくりにもつながる拠点でもある。過去の議事録を読んでもその視点が見えてこない。次世代の安心・安全にもつながる大事な視点なので地域を巻き込みながら検討してほしい。

(意見) 建設予定であったセンターは、もともと一部の人のためのものではなかったはずで、地域づくりにもつながる拠点でもある。過去の議事録を読んでもその視点が見えてこない。次世代の安心・安全にもつながる大事な視点なので地域を巻き込みながら検討してほしい。



みんな いっしょ



星野光洋 議員

問 ひとり暮らしの高齢者の安否確認対策は

答 人のつながりづくりも含め検討していく

高齢のひとり暮らしの方が増えている。何かあった場合の安否確認について町はどのような対策を行っているのか。もしもの時のさまざまなケースに町はどの程度対応してくれるのか。

いっぱん質問

(問) ひとり暮らしの方の安否確認について、どんな課題を抱え、どのような取り組みを行っているのか。

(問) 異変を感じた場合どこに連絡すれば良いのか。またその方法を周知できているか。

(町長) 今年度開始した重層的支援体制整備事業では、人々のつながりの希薄化にも視点を置き、その再構築に着手していく。町では平成17年度より緊急通報装置を導入しており、現在の利用者は45人である。

(保健福祉課長) 一番に連絡していただくのは警察。それが難しいようであれば役場に連絡してほしい。その周知についてはできていない。

(問) 町ではどの程度ひとり暮らしの高齢者の情報を持っているか。

(問) 新聞配達、郵便局、食事の宅配サービスなど、家に伺う頻度の多い企業や業者と連携し、何かあった場合の対応を図ることはできないものか。

(保健福祉課長) 対象者を450人前後と把握している。要支援となった方には台帳の登録を促しているが、それ以外の方や健常な方の緊急連絡先などはわかっていないのが現状である。

(保健福祉課長) 郵便局などから連携の提案はあるが具体的な協定には至っていない。本年度、ひとり暮らしのお宅に新聞がたまっているのを新聞配達員が気づき、ご近所に通報した事案では、

本人の意識があるうちに駆けつけ、大事に至らなかった。そういった協力いただける事業所との連携を模索していく。

(問) 安否確認にスマートスピーカーなどのICT技術の導入の予定はないか。

(保健福祉課長) チャネル・ユーに、アレクサ導入を機に見守りシステムをつけられないかという話を持ちかけたが、費用の面で

問題があり実現できずにいる。

(問) 身寄りのない方が亡くなった後の諸々の手続きなどを、地域の方が代行したというケースを耳にした。町はどの程度対応してくれるのか。

(町長) 職員が遺族や地域の方の心に寄り添いながら、丁寧な対応をすることが基本であり、それを内部で共有していく。



企業と連携することで解決する問題もある

問 農業の労働力不足に対する対応策は



松下正敏 議員

答 必要な取り組みを行っている

現在、農業分野では「就労者の高齢化」「後継者不足」「耕作放棄地の増加」といった課題が山積している。この現状を放置すれば、地域の農業基盤が崩壊しかねず、将来の町の持続可能性にも影響を及ぼすと考えられる。そのなかで、農業分野での労働力不足に対する対応策について問う。

いっぱん質問

(問) 農業の労働力不足の具体的な課題と対応策の現状と成果は。

(町長) 農業においても、高齢化や若手の参入が少ないなど、人口減少、少子高齢化によるものが主な原因であると考えられる。

(産業観光課長) 農家数の急激な減少を少しでも抑えていきたいと取り組みを行っている。町では15年前から県の里親研修制度など町外からの就農者の受け入れを行ってきた。

実績に結びつくことが少なかつた経験を活かし、地域おこし協力隊制度を活用した果樹研修制度を2020年1月から開始した。また、遊休農地対策として、2019年から農地を持たない方向けに家庭菜園から始めるひとり一坪農園の推進を

している。また、有機農業産地づくり事業として当初5人で始めたこの取り組みも、現在は10人となった。取り組み面積も10ヘクタールまで増えてきた。

(問) 労働力不足への対応は今後の農業を支える重要課題だ。新規就農支援として農地や設備を低コストで利用できる仕組みを整え、資金援助や技術指導を提供しては。

(産業観光課長) 新規

就農者の支援については、地域おこし協力隊の制度を活用して起業支援費100万円を支給し、機械・資材の購入に活用してもらっている。就農後の技術指導については、「グリーンみらい・まつかわ」に関わっている農家において、定着に向けたフォローを行っている。

(問) 農業支援に特化した地域おこし協力隊を募集し、繁忙期の農業支援を行っている。

(産業観光課長) 地域おこし協力隊や集落支援員の制度を活用した労働力の補完については、制度の目的に合わないため、そういった形で活用することはできない。現状の農繁期の作業支援については、みなみ信州農協で取り組んでいるアプリを活用したデイワーク、農業バイトや公益社団法人飯田広域シルバー人材センターでの農作業などを活用して、それぞれ農家の皆さんが労働力の補完を行っている。



農業の発展に手厚い対応を



紫芝光雄 議員

問 松川町の活性化についての施策は

答 それぞれの問いについて検討していく

松川町の活性化については、北沢町長はじめ今回多くの議員も主張しているように大きな課題であると考えます。交通手段・移住定住対策・商店街の活性化のためなど、町内の事業ひとつひとつを「活性化」に向けて見直し取り組むことが必要であると思われる。それを踏まえ、いくつかの事業について問う。

(問) チョイソコの利用方法がまだよくわからないという声を耳にする。わかりやすい告知方法は考えられないか。また料金体制の見直しも必要では。

(まちづくり政策課長)

さまざまな団体と連携して、高齢者の集まる場所に向いて対面での告知に注力している。また料金体制については、タクシー業者との兼ね合いもあり、松川町地域公共交通対策協議会において慎重に議論しながら進めていく必要があると考える。まだ始まって2年目の事業なので今後検討していく。

(問) 移住者雇用に向けた町内企業の協力状況は。

(まちづくり政策課長)

主に移住者への就業

支援は南信州まちづくりセンター所属の就業支援担当の支援員により、求人募集を行っている現状。町内33社に発信し、25社の協力を得て移住者雇用に取り組んでいる。今後企業から成果などのデータ収集を考えている。

(問) あらい商店街の活性化事業について、現在の事業と成果は。

(産業観光課長) あらい商店街は、課題が山積している。今年度から、デジタル田園都市国家構想交付金を活用して、地域の関係人口づくり、町の魅力を発信する事業を進めている。

(問) 道路整備、維持管理事業のなかに委託費があるが、その内容と委託先は。

(問) 建設水道リニア対策課長

町内業者でできることは町内の業者に委託している。工事や除雪について基本的には町内の業者に依頼している。

(町長) できる限り町内業者を入札の参加業者として進めていきたい。

(問) 入札制度について、選定メンバーは。制度をより良いものにするためには、民間も加えた方が良いのでは。

(総務課長) 副町長が委員長で各課長・局長9人が委員となっている。町事業の発注などで町の職員で行いたい。

(問) 委託費を含め、土木・建築関連の入札が、町外業者に発注されている。これは町の活性化に結びついていないと思われる。町の歳入を町内で循環させてこそ町の活性化につながるのでは。



さらに利用しやすいものに

いっぱん質問



塩沢貴浩 議員

問 町の果樹産業発展のため補助事業を

答 国・県の動向を見据え慎重に判断

今シーズンの果物、特にりんごの作柄が悪く農家の収益減が免れない状況である。町に現状の認識と補助の可能性を聞いた。

いっぱん質問

(問) 今シーズンの果物の作柄の町の認識は。

(町長) 夏の高温暖害や日焼け、カメムシの被害、また10月の降水量の多さと高温で推移したことによる着色の遅れなど、サンふじの贈答用では4割減と聞いている。

(問) 特にカメムシの吸汁被害が多く、病害虫の防除体制の確立が急務だと思うが。

(産業観光課長) 指導機関との情報連絡に努め、対策について指導機関と生産者で取り組んでいただきたい。

(問) 農薬の経費上振れ分、値上がり分や特別散布分の補助を行うべきでは。

(産業観光課長) 農薬の価格の高騰が生産者の

経営を圧迫していることは承知している。国や県の政策を活用することで、取り組み事業者の皆さんに良い支援をしていきたい。

(問) 生産者の収益が町の税収に結び付くので有益な補助だと思う。また現在町が補助をしている凍霜害対策の燃焼材の支援も生産者が柔軟に使えるようにすべきでは。

(産業観光課長) 設備投資や補助については気象変動などでわからない部分が多い。県や関係機関と協議をするなかで検討していきたい。

(問) 果樹園の遊休農地対策について町の方針は。

(産業観光課長) 農地の貸し借りについては

中間管理機構を有効活用した取り組みを進めている。果樹研修の就農先の候補として、地域計画を盛り込みながら農地継承に向けた取り組みを検討している。

(問) 収穫シーズン中の爆音機(鳥おどし)の使用について、関係人口増や観光面からも町のマイナスイメージになりやすいが、現状は。

(産業観光課長) 騒音などの苦情は役場や農業委員会に相談をいただいている。明確な基準については、県の鳥獣害防止の爆音機による騒音防止の部分を用いている。

(問) 具体的な数値を出すことが重要と思うが。

(産業観光課長) 規制値は県と相談するなかで検討が必要。



約8割の農薬で値上がりが続く



米山義盛 議員

問 リニア新幹線の遅れについて問う

答 遅れても地域が変わる契機として対応する

リニア新幹線完成が遅れる状況についてどういう認識か。工事から排出される「要対策土」が飯田市の本線工事現場に搬入される動きがあるが、町のリニア対策委員会に何か話がでているか。

また北小学校の良さを生かし維持していくため、町有地への子育て世代対象の住宅建設など、町の取り組みを求めたい。

(問) リニア新幹線完成の遅れが取り沙汰されているが、町長の状況認識は。

(町長) 34年以降という発表が出ているのが現在の状況だ。工事は順調に進んでいると聞いている。松川町としては、トンネル工事の発生土運搬の調整を引き続き図るとともに、

制度を活用した前河原道路新設改良事業・福与河原圃場整備事業、そして福与・竜井取水施設建設工事をJR東海や地元企業と早期完成を目指して取り組んでいく。

(問) 町のリニア対策委員会が設置されているが、開催状況や今後の予定はどうか。

(建設水道リニア対策課長) 今年度は、7月に一度開催した。今後の具

体的な開催時期は未定である。

(問) JR東海が大鹿村から排出される「要対策土」をリニア本線橋脚内に詰め込むと表明し、地元住民から反対の動きがあるが、有害残土が町内を通ることになる。JR東海から話はあるか。

(建設水道リニア対策課長) 7月のリニア対策委員会、JR東海から要対策土を活用する飯田市への運搬予定について説明があった。運搬はダンプにて松川町内の道路も運搬ルートとして考えている。ダンプの荷台には防塵シートを敷設し、飛散防止対策を徹底すると説明であった。

(意見) リニア残土運搬ダンプの転落事故が今年2回起こっている。

要対策土を積んだものなら環境悪化に厳しい問題となるのでは。またリニア工事に関わり不安材料の問題が続出しており、元々この工事自体が非常に難しいことをもつと国自身が十分審議し、認可すべきではなかったと私は判断している。工事凍結再検討を求めたい。

(問) 松川北小学校について生徒数の推移と今後の見通しはどうか。

(子ども課長) 児童数は令和元年度127人、令和6年度は99人。5年後は74人、10年後に

は60人程度になると見込んでいる。

(問) 上片桐駅の北側専用側線跡地や清北の元教員住宅跡地など町有地の活用で、若者・子育て世帯用の住宅建設などの取り組みが考えられないか。

(まちづくり政策課長) 土地開発公社を活用し開発整備していく。今年度、土地開発公社中期経営計画を策定し、優先的に進めていく計画として、北小学校周辺地域への分譲開発を盛り込んでいる。



舗装と開発を待つ上片桐駅西口

いっぱん質問



米山郁子 議員

問 教育体制の課題、今後の支援は

答 一枚岩で仕組みづくりを目指す

松川町の特徴として英語教育に特化した取り組みに力を入れている。今後の課題は何か、コロナ禍で全国的に学力と体力の低下が見られるが、町の現状と対策について、教育体制はどこへ向かおうとしているのか。

いっぱん質問

(問) ウェルビーイングアンケートでも子育てや教育体制の支援と整備が必要であるとの結果が出ている。今後の教育体制の支援に対する考えは。

(答) 野として、教育体制の充実や子育て支援に取り組むことは重要と考えている。

(問) 外国語指導助手を増員されて英語教育を推進しているが、現状の体制と、こどもたちや保護者の反応は。

(問) 特色ある英語教育を推進していくには人材と財政面でも、しっかり取り組む必要がある。希望する人材数と教育体制はどこまで進めていくと一定の効果が出せるのか。

予想以上の大きな成果と手応えを感じる。

(町長) ウェルビーイングアンケートでは、子育て、初等中等教育に関する結果は平均をやや下回っている。町として、重点的かつ積極的に推進していく分

(教育長) 保育園および学校からの報告と、授業参観などを通しての聞き取りによると、

(教育長) 当面は人材としては民間からのALT1人増の4人体制から5人体制としたい。

(町長) 財政面では自主財源が必要。ふるさと納税など町の財源確保に向けて動き、町としてバックアップしていきたい。

(問) 学力や体力低下が全国的に見られるが町の現状は。学力・体力向上はどのようにされていくのか。

(教育長) 学力は全国、県に対してやや下回る傾向。対策として3校合同でチーム支援を基軸に指導内容、方法、評価を同一歩調で進めている。指導・学習環境が整ってきており、熱心に学習に取り組む姿が多く見られるようになってきた。体

(問) 多様な考えのなかで、選べる教育環境が必要。保育園の民営化の考えは。

(町長) 民営化するといった方向性は今のところない。



ALT(外国語指導助手)と楽しく勉強



加賀田亮 議員

問 長期間改善が進まない課題の解決は

答 時間を要しても僅かずつ前進させる

住民が問題意識を持ちながらも、10年20年単位で根本的に解決されない地域社会問題がある。区や自治会の問題、消防団の問題などは顕著だ。行政は住民の力を活用し新しい視点や角度の「試案」を求め、これをたたき台に議論を活性化、改善の推進を図るべきではないだろうか。高齢化少子化が急伸する今、スピード感のある課題解決が必要だ。

いっぱん質問

(問) 団員減少に苦しむ消防団問題は解決が

(町長) ①現状において問題はないと考えている。②各地からの要望も多く、区や自治会の負担にならないよう配慮している。
(ごども課長) ③努力はしているが成果を出すには至らない厳しい現状だ。

(問) 過去の一般質問で質した以下の件について、その後の対応について問う。①チャンネル・ユー(以下CY)の役員構成の問題と、町政ニュース発信番組の新設は。②行政が区や自治会に充て職を求めると、区に対する行政の過剰な依存の問題は。③出産育休退園問題の改善を求める請願を議会は採択したが、その後の対応は。

が「試案」を出すこと

(町長) 住民自身の議論の行く末を待ちたい。課題は複雑なので行政が「試案」を出すこと

(町長) あり方検討委員会の答申を待ちたい。
(問) CY、区・自治会、保育園、消防団の問題などに共通しているのは、問題解決に至らず10年以上長い間議論していることだ。住民はそれぞれに問題意識を持っているが、根本的な解決に至らず議論するのも限界に近い。こういう場合こそリーダー自身が議論のたたき台となる「試案」を複数示して議論の方向を整える必要があるのではないか。

困難であり喫緊の課題だが、町長がリーダーとしてあるべき解決方針を明確に打ち出すべきでは。



消防団問題は喫緊の課題だ

(町長) 現状の各種委員会や諮問機関などで少しずつではあるが問題の解決に向けて前進している。スピードを求めるのは困難だ。

(問) 行政からたたき台となる具体的な「試案」を出すことに抵抗があるのならば、「試案」を作ることを住民に求めているかどうか。議論のたたき台になる「試案」を複数の住民グループに諮問し、たたき台となる「試案」を出してもらおう方法はあるか。

は困難だ。

(意見) 10年20年と問題が根本的に解決しないのは、関係者一人ひとり考えや背景が多様で問題の構造が複雑になっていくからだ。問題から一歩離れた、しづらみのない住民グループなどで問題の根本にメスを入れ、全く新しい視点や角度からの提言を求め「試案」をつくる。これをたたき台にして協議する。このサイクルが解決のスピード、多様性を促進させると考える。行政は住民の「新しい視点」を歓迎し促進する姿勢が必要だ。行政の覚悟を期待する。

この町に暮らして

松川のおいしい果物を作り、守れるように

(城) 円谷 淳二

2023年1月、果樹農家を目指し妻と二人で神奈川県から松川町に移住してきました。神奈川県では都内の会社でサラリーマンとして働いており、農業とはほぼ無縁の生活を送っていましたが、松川町への移住と同時に会社を退職し、今は、松川町の「果樹農業研修制度」という3年間の研修の最終3年目を迎えました。

今まで本格的な農業はほとんどやったことがなく、ましてや果樹など本当にできるのか、と不安な部分はありませんでしたが、ここまでの2年間の研修で、剪定から収穫、スピードスプレーヤーでの防除作業や乗用モアでの草刈りといった年間の果樹の作業を実地でやらせて頂き、加えて、果樹栽培の技術や知識を惜しみなく教えて頂き、それを実践で積み重ねることで、まだ

まだ未熟ではありますが、着実に果樹農家としての自覚と自信がついてきたと感じることができるようになりました。

ここに至るまで、本当にたくさんの方々の助けや教えを頂き感謝しております。また、松川町で生活をしていくなかで、自治会の方々、各団体の方々、そしてお会いした皆様にさまざまな助言や助けを頂き、松川町の2年間はただただ感謝の2年間になりました。残り1年研修はありますが、独立後に向けていろいろ準備をしながらも、お借りできる園地があれば可能な限りやらせて頂き、まだまだ至らないところだらけですが、

松川のおいしい果物を作り、守っていきけるように頑張って参りたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。



I Have a Dream!

私には夢がある

未来に羽ばたく若者●子どもたち



松川中学校 野球部

挨拶は人格 全力疾走

練習では主にキャッチボール、ノック、バッティング練習を中心に行っています。練習中は挨拶や全力疾走など、人格を磨くことを目標にしています。南信上位を目指して日々頑張っています。ぜひ応援してください！

(野球部主将 松下丈留)

タイトルの「I Have a Dream」は、ノーベル平和賞を受賞したキング牧師の演説の一節。職と自由を求めたこの有名な演説は、公民権運動に大きな影響を与え、未来を切り開いた。

広報部

(編集委員会)

(部長)
星野光洋

(副部長)
小川隼人
柳原 猛

(部員)
坂本 勇 治
加賀田 亮
宮下 明
松下 正 敏

あ と が き

改選に伴い今号より新しい編集委員が構成されました。新人議員も加入し心機一転、一人でも多くの方に議会や町政に興味を持っていただく議会広報を目指して参ります。(広報部一同)

